国際ロータリークラブ第2730地区

日南ロータリークラブ

~NICHINAN ROTARY CLUB since 1954 ~

2025-26年度クラブスローガン「臥薪嘗胆」

WEEKLY　REPORT　NO.16

第 3443 回 例会		開催日：2025年11月12日（水）			点鐘12:45
国歌		会員数	33	MU	2
ロータリーソング	日も風も星も	出席免除	9(7)	欠席	1
4 つのテスト	竹井克己君	HC出席	23	出席	25
ゲスト		出席率	85.17%	先取MU	竹井（崇）、村社
		出席免除	落丸、小玉、清水、野崎、日髙、古澤、渡邊		
ビジター		欠席者	斎藤（奈）		
例会行事	結婚誕生卓話				

会長時間（斎藤篤史会長）

今日は少し気楽に、でも奥の深いテーマ―
「運のいい人、悪い人の違い」についてお話しします。
人生を歩んでいると、「あの人はいつもついてるな」と感じる人がいます。
一方で、「自分はなぜかついてない」と嘆く人もいます。
宝くじの当たり外れのように“運”は偶然のように思われますが、
実は科学的にも「運がいい人には共通点」があることが分かっているんです。
イギリスの心理学者、リチャード・ワイズマン博士は、
「運がいい」と感じる人と、「自分は運が悪い」と感じる人を集め、ある実験を行いました。
博士は被験者に新聞を渡して、こう言いました。
「この新聞の中に写真が何枚あるか、数えてください。」
“運が悪い”とされる人たちは、真面目にページをめくりながら一枚ずつ数えました。
しかし“運がいい”人たちは、2 ページめくったところでこう言ったのです。
「先生、もう答えが書いてあります。“写真は全部で 43 枚です”と！」
そう、実は 2 ページ目の見出しに、
「写真は全部で 43 枚」と大きく書かれていたのです。
運が悪い人は、真剣に目の前の作業に没頭しすぎて、
“そこにあるチャンス”を見落としてしまう。

一方で運がいい人は、肩の力を抜いて、周りを見る余裕がある。
博士はこの実験から、こう結論づけました。
「運とは、偶然ではなく“注意の向け方”の差である。」
運が良い人の 3 つの習慣
① よく笑う
笑顔の人には、人が集まります。
笑顔は心理的にも「安心・好意・信頼」を生む信号。
笑顔の周りには自然と情報もチャンスも集まります。
アメリカの調査によると、
「よく笑う人は、そうでない人に比べて人から頼まれる確率が約 3 倍」だそうです。
チャンスとは、最終的に“人”が運んでくるもの。
だからこそ、笑顔は“運を呼ぶ顔”なんです。
② 行動が早い
運がいい人は、とにかく動きが早い。
「やってみようかな」と思ったら、すぐに行動する。
運の悪い人は、「もう少し考えてから」とチャンスを先送りしてしまう。
チャンスには“賞味期限”があります。
動いた人の前にだけ、偶然が顔を出す。
「運」という字は「運ぶ」と書きますね。
つまり、“自分で動かすもの”なのです。
③ 失敗を恐れない
運のいい人は、失敗してもあまり落ち込みません。
「これも経験」「運が悪い日もあるさ」と受け入れてしまう。
逆に、運の悪い人は「なぜ自分だけ…」と長く引きずる。
ワイズマン博士はこうも言っています。
「運がいい人は“偶然の失敗”をチャンスに変える習慣がある。」
つまり、「失敗＝不運」ではなく、「失敗＝経験」だと思える人が、
次のチャンスを見つけるのです。
脳科学では、ポジティブな思考をする人ほど“運がよく見える”ことが証明されています。
たとえば、雨の日に「ついてない」と思う人と、
「今日は涼しくて過ごしやすいな」と思う人。
同じ天気でも、脳内の状態はまったく違います。
ポジティブに考える人の脳では、セロトニンやドーパミンという幸福物質が分泌され、集中力が高まり、行動力も増す。
結果として、チャンスをつかみやすくなる。

つまり、「運のいい人」は、“脳の使い方がうまい人”なのです。
運のいい人ほど、人との出会いを大事にします。
たとえ一度の会話でも、「また会えたらいいな」と笑顔で別れる。
その積み重ねが、いつか思いがけない“ご縁”につながります。
日本語の「縁（えん)」という言葉は不思議です。
「運」と同じく、自分では作れないようでいて、
実は“自分の姿勢”が引き寄せるもの。
小さな縁を大切にしている人ほど、
人生の大きな流れが良い方向に進む傾向があります。
ここまで聞くと、「自分は運が悪い方だ」と感じた方もいるかもしれません。
でも、実は「運が悪い」と思っている人こそ、運を変えやすいのです。
なぜなら、自分を客観的に見つめ直す力があるからです。
「自分は今ツイてないな」と気づくことが、
すでに“運の流れを変え始めている”証拠なんです。
運を良くする最初の一歩は、
「自分を笑い飛ばせる余裕」を持つことです。
「まぁ、こういう日もあるさ」と口に出せる人の周りには、
自然と明るい空気が生まれます。
運をよくする５つの習慣
心理学者たちは、行動習慣から“運を良くするコツ”を次の５つにまとめています。
①　よく笑う
②　よく動く
③　よく話す（人と関わる）
④　よく寝る（心身のリズムを整える）
⑤　よく感謝する
特に「感謝」は、運を安定させる効果があるそうです。
「ありがとう」という言葉を言うと、脳内で“幸福ホルモン”が出る。
それが自分の気分を明るくし、行動を前向きにし、結果的に“運の循環”を作り出します。

“運がいい人”の特徴のひとつは、小さな幸運に気づく力です。
・朝の渋滞が思ったより早く進んだ
・コーヒーが美味しかった
・道で子どもが笑っていた
これを「今日ツイてるな」と思える人は、

毎日を幸運の連続にできます。
逆に「こんなことくらいで」と流してしまう人は、
自分で運の扉を閉じてしまうのです。
最後に、ワイズマン博士の言葉をもう一つ。
「運がいい人とは、幸運を見つけようとする人のことである。」
運とは、風のようなもの。
止まっている人の周りには吹かず、
歩いている人の頬をそっと撫でていく。
笑顔で動き続ける人のもとに、運は必ずやってきます。
今日、皆さんがここにいることも、
もしかしたら“何かの運のめぐり合わせ”かもしれません。
「運がいい人」になるのは、特別な才能ではなく、
毎日の小さな前向きさの積み重ね。
どうか明日、鏡を見たときにこう言ってください。
「今日もツイてるな。」
その瞬間から、運の流れは変わり始めています。

幹事報告（菊池希樹幹事）
特に無し

結婚誕生卓話（黒武者和浩君）
昨年の誕生月の卓話で鹿児島銀行は役職定年が 55 歳で、あと 5 年で支店長職も終わってしまい、息子 3 人の教育資金と住宅ローンが不安だという話をしましたが、今年の 4 月に人事制度が改定され、段階的に役職定年の年齢が引き上げられることになり、少しほっとしております。
鹿児島銀行は熊本の肥後銀行と経営統合して九州フィナンシャルグループを設立し、その子銀行として営業しておりますが、今年の 10 月 1 日で九州フィナンシャルグループ設立 10 周年を迎えました。
11 年前に経営統合が発表されたのですが、その頃は鹿児島の川内支店というところで営業担当をしておりましたが、経営統合のことを知ったのは、担当していたお客様からいただいた電話でした。
肥後銀行と合併するんだね
何言ってるんですか？
今ニュースで言ってたよ
それからスマホでニュースを検索して経営統合のことを知りました。
経営統合という言葉は最近では耳にする機会も増えましたが、当時はまだそうでもあ

りませんでしたので、合併と混同されるて聞かれることも多かったです。
合併とか経営統合とか聞くと、業況があまり良くないのかな？とか思いがちですが、
鹿児島銀行が経営統合を行ったのは決してそのような理由ではなく、
地方は何処もですが、少子高齢化が避けて通れない状況にあり、将来的に人口減少による地域経済の縮小が予想される中、地域金融機関として地元経済を支えていくために、どのようにして経営基盤を強化していくかを検討していくなかでの選択だったようです。
10 周年にあたり、地元新聞が弊行の取引先に行なったインタビューでは「あまり変化を感じない」という意見が多かったようです。
経営統合で規模は拡大しましたが、銀行は従来同様、それぞれ独立して運営しており、『統合と独自性』ということを基本コンセプトにしているので、変化を感じないというご意見は今まで通りの営業ができているということの証にもなるので、良いことだと感じました。
まあ、今までが良かったのかどうかは賛否あるところだと思いますが。
統合と独自性という統合の仕方は EU を参考したということで、私も今回新聞記事を読んではじめて知りました。
EU はそれぞれの国家主権と文化、風土は変えず、共同体として国の発展と国民福祉を保つ方法で市場を拡大して、通関の自由や通貨の統合を実現していったそうです。
それを参考にして、間接部門で統合できるところは効率化を図って、それぞれの銀行の独自性は確保するという、地方共同体のような機能を強化して地元経済を守り発展させながら持続可能性を高めることを目指すというのが、九州フィナンシャルグループの根底にあります。
規模が拡大したと申しましたが、経営統合の約 3 年後に九州 FG 証券という証券会社を設立し、今までよりも専門性の高いサービスの提供が行なえるようになりました。そのほかにも、IT や DX 関連の会社や南九州 3 県のいいものを集めて域外に発信している『よかモール』という EC モールを運営する会社などグループ傘下には現在 20 数社の子会社がございます。
私もあと 9 年ほど銀行に残れる可能性があって、またグループ会社もたくさんありますので、今後どこに行くかは分かりませんが、引続きよろしくお願い致します。
私の日南での生活も 2 年半を超え、残りが短くなってきていると思いますので、会長からあったように、たくさん笑って、失敗を恐れず、すばやく行動に移すことを意識し、今日もツイてるなと思いながら日南での単身生活を楽しみたいと思います。

結婚誕生卓話（花盛和也君）

結婚記念を祝っていただき、ありがとうございました。11 月 23 日にルビー婚である結婚 40 年目を迎えます。昨年の結婚記念卓話ではライラ引継ぎ会の話をさせていただ

き、来年の 40 年を迎えた時に結婚にまつわる話をしますと言っていましたので、今日はその話をさせていただきます。
昨年の 8 月に同居していた 3 番目の次女が、突然、9 月から静岡に引っ越すと言ってきました。今の仕事先には 1 年前から伝えており、すでに引継ぎも終わっているとのこと、静岡には大学の先輩や仲の良い友人もいるので、そこで新たな仕事を探すとのことでした。急な話に驚きながらも、了承して見送ったところ、その 2 か月後に、突然、浜松から旦那さん候補を連れて帰省し、結婚の伺いを立てられました。一生独身で過ごすのではないかと心配していた娘で、相手は大学の同級生でとても優しい男性でしたので、喜んで快諾いたしました。その後、12 月に入籍し、今年の 2 月に長崎市から向こうのご両親と妹さんが我が家へご挨拶に来られました。
本人たちの希望で結婚式は上げないということでしたが、相手側から親戚関係の顔合わせだけでもしたいということで、先月の 11 日に長崎市の稲佐山ホテルで食事会を開くことになりました。娘夫婦からは披露宴ではなく食事会だから派手なことはせず、家族だけ参加してくれたら良いと言われていたので、こちらからは私たち夫婦と長男夫婦、長女の 5 人だけ参加することになりました。
ところが、会場に着くと相手側の親戚はもちろんのこと、ご両親の友人など 20 名以上の人たちが参加しており、会の進行も専属の司会者がいてほとんど披露宴のようで、挙句の果てにはサプライズでウェディングケーキカットまでありました。こんなことなら、私の兄弟だけでも連れてくればよかったと悔みましたが、参加者一同、とても気さくで優しい方々ばかりで、会が進むにつれてそんな思いも吹っ飛び、食事会終了後は、ホテルの最上階にあるラウンジで 2 次会も準備されており、皆でカラオケを歌いながら、大いに盛り上がりました。すべてが無事に終わって、今、ホッとしたところです。
実は、長男も入籍して、そのうちに簡単な結婚式か披露宴を挙げようかと言っていましたが、そのままコロナ渦に入ってしまい、結局、今まで有耶無耶になってしまいました。だから、子ども 3 人中 2 人が結婚していますが、親としての結婚式や披露宴の経験がないという現状です。
ちなみに、結婚式に関するアンケートを見てみると、式は挙げないが 42%、検討中が 30%、式を挙げる予定はわずか 28%という結果になっています。2019 年までは 80%が結婚式を実施していましたが、コロナ渦でガクッと落ち込んだ後、未だに回復していないということでした。このデータを見て、私自身も何となく安心した次第です。
今の時代は、結婚式や披露宴に係る資金を二人の将来のために使った方が良いのではないかとも考えています。以上で結婚記念卓話を終了します。ご清聴ありがとうございました。

結婚誕生卓話（井野畑善順君）

今年の 11/7 で 46 年目の結婚記念日を迎えました。
結婚記念日と妻の誕生日の日には、毎年欠かさず花をプレゼントします。その花は、もちろん松本花屋に籠花を作ってもらいます。前は 3,000 円税込でお願いしてましたが、最近では 5,000 円にグレードアップを致しました。近年の夫婦 2 人の話題は、孫の話も多いですが、圧倒的に日常会話の大半は認知症の今年の 11/7 で 46 年目の結婚記念日を迎えました。結婚記念日と妻の誕生日の日には、毎年欠かさず花をプレゼントします。その花は、もちろん松本花屋に籠花を作ってもらいます。前は 3,000 円税込でお願いしてましたが、最近では 5,000 円にグレードアップを致しました。近年の夫婦 2 人の話題は、孫の話も多いですが、圧倒的に日常会話の大半は認知症の母の事に成ります。約 10 年位前から認知症の症状が出始めて現在に至りますが、徐々の進行は有るものの、私が知っている他の認知症の方からすると進行は遅い方ではないかと思われます。そんな母は、自分の事しか考えられないので、毎日振りまわされっぱなしです。今後は､症状が進むに連れて更に大変な状況にきっと成るのだろうなと一応覚悟をしている所では有りますが、冷静に諸々を想像してみると、いつまでこの様な状況が続くのか正直不安で一杯です。話は変わりますが、皆さんは携帯依存症の自覚がある方は居られますか？多分、私はかなり重症の依存症だと自覚しています。
母は同じ敷地内に住んでいて、私の寝床から約 70～80 ヤード位離れた別棟に住んでいます。母の様子を見にこの距離を行ったり来たりも結構大変なので、以前は母の携帯に掛けて「晩御飯は食べたか？ご飯は足りるか？おかずはどうか？」と確認出来ましたが、近年は携帯電話を使う事も出来なくなり、母の携帯は解約しました。ご飯を食べたかどうかも自分では分からなくなっています。そこで、現在、我が家ではインターネットを活用した見守りを色々行なっています。ＩＴ関係に得意な長男が設定してくれたのですが、先ずは見守りカメラを母の隠居には４台設置して有ります。その為に、母の隠居にはネット回線を引いて Wi-Fi を使える様にしています。これにより、私のスマホよりカメラの画像がいつでも見る事が出来、更にカメラのハードディスクに保存されている１ヶ月位前の録画もスマホより時間を遡って確認する事が可能です。又、エアコンは温度や時間で作動する様に設定されていますが、スマホより設定の変更も可能です。基本的に、スマホからの操作なので母が勝手にエアコンのリモコンを触っても設定が変わる事は有りません。更に、徘徊なども監視する為に玄関のドアにもセンサーが取り付けて有り、玄関の開け閉めでスマホに通知が届きます。私はアップルウォッチを入浴以外は腕に常に付けています。スマホとアップルウォッチは同期しているので、夜中でも気が付く予定です。その様な事で、しょっちゅうスマホを見ている事に成っていて、スマホを手放す事が出来ません。自宅介護は大変ですが、母はやはり自宅で過ごしたいようです。妻と話して、我々夫婦の限界が来るまでは自宅で介護して行こうと思ってます。皆様方本人も、母のような事が起こるかも知

れませんので、出来るだけ周りの方々に迷惑を掛けない様に気を付けてお過ごしください。

結婚誕生卓話（峰松俊夫君）

明日で、私たち夫婦は結婚31年を迎えます。そして、私自身のロータリー歴も21年となりました。この節目に、「家族」と「ロータリー」、そして「仕事」との関わりを改めて振り返る機会をいただいたことに感謝しております。

結婚当初、私はウイルス学の研究者として、主に臓器移植後の感染症や先天性感染症のウイルスを対象に研究をしておりました。手術の現場に立つ移植外科医のような華やかさはありませんが、目立たぬところで医療の土台を支える仕事だと信じていました。ウイルスの遺伝子を解析し、伝播の経路を明らかにし、診断や対策法を地道に模索する――それは非常に静かな、しかし、患者さんの発症を待って、解析をするという、忍耐のいる仕事でもありました。思えば、結婚生活もそれに似ているのかもしれません。ドラマティックな出来事よりも、日々の積み重ねと、意見のズレや誤解を少しずつ修復していく営み。その繰り返しのなかで、気がつけばまた共に過ごしている――そんな時間が流れていました。31年という歳月は、「うまくいった証」ではなく、「諦めずに問い続けてきた証」なのだと、今はそう感じています。研究者という仕事は、社会とやや距離のある存在に見られがちです。そんな私にとって、2004年に入会したロータリークラブは、大きな転機となりました。入会前の説明で、当時の幹事だった小玉先輩から「Service Above Self（超我の奉仕)」というロータリーの理念を教わりました。最初はその言葉の重さに、少し戸惑いも覚えました。「自分を犠牲にしてまで他者に尽くすのか」と。さらに、2回目の例会で、土屋先輩から「ロータリアンに“できない”の返事はない」と言われ、正直「ずいぶん押しが強いな」と思ったのを今でも覚えています。しかし、3年目、国際奉仕委員長として釜山港都ロータリークラブとのマッチンググラント計画に携わることになり、土屋先輩に補助金の資金について相談したところ、「自分がSAAをしていた頃のスマイルをその資金を活用すればいい」とご提案いただきました。そのおかげで私は、釜山港都RC、2730地区、ロータリー財団との申請・手続きに集中することができました。また、幹事を務めた際には、クラブ全員をポール・ハリス・フェローに推薦する手続きを担わせていただきました。その中で、小玉先輩からのポイント利用についてのアドバイスをいただき、多くの会員の協力に支えられながらプロジェクトを進められる「ロータリーの文化」に触れることができました。こうした経験を通じて、「奉仕とは自己犠牲ではなく、自分にできることを活かして協力すること」だと、心から思えるようになりました。そして先日、2730地区のガバナー指名委員会より、2029～2030年度のガバナー候補としてのご指名をいただきました。パストガバナーからの電話でその報を受けた瞬間、かつて土屋先輩がおっしゃった「ロータリアンに“できない”の返事はない」という言葉

が、脳裏によみがえりました。「できない」と言う前に、「どうすればできるか」を考えること。それこそがロータリアンなのだと、改めて思い直しました。自分の力には限界もありますが、だからこそ、クラブの皆さまのお力をお借りしながら、最善を尽くしていきたいと考えています。結婚生活も、仕事も、ロータリー活動も、共通しているのは「続けることの尊さ」です。完璧ではなくても、やめなかったからこそ築かれた信頼があります。関わり続けたからこそ見えた景色があります。この 31 年、決して順風満帆ではありませんでした。むしろ、失敗の方が多かったかもしれません。それでも、「もう一度関わってみよう」と思えたのは、ロータリーに出会い、その精神に触れることができたからだと思っています。これからもロータリアンとして、また家庭人としても、良き未来への「つながり」を大切にして歩んでまいります。今後とも、クラブの一会員として、どうぞよろしくお願い申し上げます。

スマイル

西島元利君　先週の例会で土屋さんの結婚卓話の写真を撮り忘れました。日南ＲＣで一番画になる方を撮れなかった事は、雑誌広報委員会としては痛恨の極みです。大変失礼いたしました。

日南RC事務局	〒887-0014　日南市岩崎3-4-2 Itten堀川ビル2階 創客創人センター内
	TEL：0987-22-3363　FAX：0987-22-3515
2025-2026年度	会長：斎藤篤史　副会長：入中英雄　幹事：菊池希樹　雑誌広報委員長：西島元利
	例会：毎週水曜日　12:45~13:30　会場：ホテルシーズン日南（TEL：0987-22-5151）

※例会内でお話いただいた内容の原稿は soumu-nishijima@aisenkai-nichinan.jpまで送信ください。